

第7日

令和5年9月6日（水）

午後2時10分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 16番議員の実藤輝夫でございます。この場に立つたびに、昭和54年6月、最初に当選し、この場で一般質問し、そして、市長以下、いろいろな答弁をいただきました。昨日のように思い出します。初心忘るべからず、そのときのいささかの緊張と、そして、やるぞという興奮と混じり合わせた気持ちで今回の一般質問に当たりたいと思います。

私が、一番最初に思い出すのは、二人の足の不自由な方が私のところにお見えになり、丸山公園の99段の階段に手すりをつけてほしい、私たちも人並みに階段を上り、お参りをしたい。あそこには金毘羅様もあります。時の塚本倉人市長に訴えまして、即、職員に指示を出し、今、いろんな方がそれを使って喜んでいただいて、本当に住民代表としての最初の初仕事でした。それから思い出すたびに、久留米大学誘致、これは頓挫いたしました。その後、美奈宜の杜の建設、そして昭和58年、甘木市が赤字再建団体か、自主再建かという、どうする甘木市という中に、議員代表の一人として検討委員会に参加し、その結果、2年後に経常収支比率が99.8%、それが2年後には80%、3年後には77%というふうになり好転し、ピーポートの中ホール、そして、社会福祉協議会があるあの建物が建設されることになりました。その後、大きな国鉄甘木線が廃止される。陸の孤島と呼ばれるこの甘木・朝倉におきましては、どうしても国鉄線を何とかして残したい。これは、甘木市だけではなく、朝倉、杷木、三輪周辺、大刀洗、鳥栖、ずっとこの関連自治体との関係においても一大事業でありました。

私も甘木町に居を構えておりました関係で、同僚議員と同時に一緒になってこの存続に奮闘した覚えがあります。そして、その後、甘木・朝倉・杷木、そして朝倉郡全体との合併という問題が起こってまいりました。私も微力ながら特別委員長として、その合併に携わってまいりました。結果的には、甘木・朝倉・杷木、1市2町の合併となりました。その後、甘木町の公民館再建という課題が出てまいりまして、ここに同席されております同僚議員と共に一緒になって地域住民の御協力と理解、そして、その当時の塚本勝人前市長の理解を得まして、それこそ、オール甘木町という形でフレアス甘木を建設することができました、そのいささかでも一翼を担わせていただいたことに心から感謝いたしております。

振り返りますと、議員が何を成すべきか。住民代表として、議会は、まず行政のチェック機関であります。

第2に、議会議員としての年間を通じての役職に基づくルーティン、議会課題に対して対応してまいります。

3番目には、この朝倉市の発展と朝倉市民の安寧を願い、住民代表として提言を行い、当面する課題に敢然と立ち上がり、そして、未来を描いていく。これが、私の思う議員像であります。早45年が過ぎました。自分として何を成したのか、どうあったのか、反省するたびにじくじたる気持ちになってまいります。

今回、一般質問をしようという決意をいたしましたことは、後に質問席から申し上げていきますが、残された課題は、現状の問題をいかに処置するかということと同時に、明日の朝倉市の未来をどのように市長をはじめ議会人として市民とともに考え、築いていくか。これを今日、いささかでも問い、前向きな答えが出、そして、進むことができたならなと願ってやみません。

以下、質問席におきまして、いつもながら政策論争として、市長、副市長、教育長を中心として質問を行ってまいりたいと思います。

(16番実藤輝夫君降壇)

○議長(小島清人君) 16番実藤輝夫議員。

○16番(実藤輝夫君) 先ほど、長々と自分の思いを述べさせていただきました。今、市民が願うことは何なのか。この前の選挙で当選された全議員は、市民の御意見を胸に今回の一般質問も含め、いろんな提言をなされていると、このように思っております。

その中、でいろいろな要望を出し、行政に対してああしてほしい、こうしてほしいという願いは常にあるけども、市は金がない、お金がないからできませんと、こう言われます。非常にこの問題を突きつけられてまいりました。

今日は、果たしてそうなのか。この金の流れが——財政というふうに言うわけですけども、まず第一番目に通告しておりますふるさと納税を、皆様、決算の令和4年度で幾らになっているか御存じですか。29億2,847万8,000円になりました。これが細かいことは決算委員会でも討議されていきますから、概略だけ述べますけども、これの約55%が手数料・返礼金として歳出として出てまいります。その残りの金が、市の取り扱うことのできる金になってまいります。

今回の29億2,800万円の中で、13億5,100万円が基金に組み入れられてきました。これは、差し引き計算でそうなります。

このふるさと納税が、後でも述べますけども、非常に厳しい状況から、今回、全国で57位、福岡県下で4位という好成績を修めております。

ちなみに、一番多いところをせつかく傍聴席の方も来られておりますのでお知らせしますと、宮崎県都城市が一番で195億9,261万5,000円です。これ2番目が紋別市、北海道の、これも194億円、まあ、これに比べますとそんなに多くはありませんけども、しかし、朝倉市の過去の例を取りますと、非常に職員、その他が努力し頑張ってきた結果だと、非常

に好ましい。これを基にして、後から財政の見通しという形で、私のこの質問の趣旨は、このお金を1つの財源として経常的に当面する行政課題を解決し、将来的な未来の計画を練ることができないものか。私はできると、結論としては言うておきますが、その方法を市長以下どのようにしていくのか、これが私の今日の質問の趣旨であります。

市長、まず、朝倉市の未来を考えるという意味において、このふるさと納税がこのように好転してきた。これを基にして、朝倉市の未来を若い人たち、そして子供たち、訴えるようなことがあるのではないかと思いますので、まずもって御質問いたします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） ふるさと納税、本市、29億円、令和4年度であります。堅調にその額を伸ばしてきて、さらに努力を重ねているという段階であります。

これまでは、大体その半分でございますので——を、平成29年災害に使わせていただいているということございまして、その残りをふるさと納税の趣旨でもあります地方創生に活用させてきていただいているということでございます。

例えば、移住定住センターを建設する、そういったことに活用をさせていただいているということでもあります。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 私の質問の趣旨は、こういう財源が今出てきておると。市長が考える朝倉市の未来をやっぱり打ち出していかなきゃならない。長ですから。行政課題に対してこれに使ったということは、もう私たちは承知をいたしております。私は、私なりの朝倉市の未来を考えるいろんな意見を持っておりますが、一議員です。市長、教育長は、その長としての立場上、いろんな思いがあるだろうということで、こういう朝倉市をつくりたいんだ、市長の夢は、未来はこうだというのを1つ言ってほしいというのが、私の質問の趣旨です。どうぞ。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 朝倉市に住んでよかったと、住み続けたいと、安全・安心な生活を送れる、そういった朝倉をつくると。それから、教育をはじめとして子育てに十分応えうる朝倉をつくっていくということ等を掲げておりまして、トータルいたしましてやはり住民の人たちが笑顔で、年代を通して住み続けられるような朝倉、そして、将来に希望が持てるような朝倉をつくっていくと、そういったことを考えております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 総論としてのお話と、これから具体的に各論として現実的に何をなしていくべきか、していかなければならないかということをお聞きしたいと思います。

その前に、先ほどふるさと納税の問題を中心に出してございましたけれども、私は、いろんな過去の活動の中で、平成26年でしたけれども提案をしまして、同僚議員の9名の皆様方と「朝倉市人口問題 若者に魅力ある朝倉市の創生を目指して」というタイトルで、朝

倉市議会人口問題研究会を立ち上げました。その当時1期生の方が2名、2期生の方が3名、3期生の方が2名、4期生の方が1名、そして、私で9名だったと思います。1期から4期まで、そして、私を含めて新人からベテランまで入っていただいて、8か月にわたってこのような朝倉市にこういう提言書を出しました。恐らく市長は見られていないんじゃないかと。この中でこれを見られた方いますか。そうですね、一生懸命作ったんだけど、没になってしまってお蔵入りして、持っている方もいると思いますが、やっぱり、何が言いたいかと言いますと、この9名でかんかんがくがくやりながら行政に対して、このふるさと納税制度の積極的推進という形で討議をしてみました。皆さんの御意見をまとめた形で、これは今日の私のふるさと納税、そして、ここにおられる方々の今後の——この提言は現在はまだほとんど全て行われています。

しかし、これを作った平成26年段階は、先ほどの29億2,800万円に対して、平成25年が32万円、平成26年が77万円なんです。そのときにこれではいかんと、こんなばかげたことはあり得ない、もうよそでは何億円とか十何億円とかいうのも出てきとったわけです、その当時。それで、皆さん方と一緒に提言書を作りました。ぜひ、6つの提言を書いておりますので聞いてください。恐らく、市議会議員の皆さんも、これを見られたことはあっても読んだことはない人がほとんどだし、もらっていない人もいるんじゃないかと。もう何にもないと言えるような状態のときの提言です、これは。

朝倉市の積極的な取組の推進。1、朝倉市にふるさと納税の担当課を新設するか、各関連部を統括する部署を設置する。2、朝倉市内の関連業者と協働して特産品の選定、ブランド品の開発、販売の促進を図り、また、全国規模でふるさと納税事業に携わっている大手企業と早急に提携する。3、里帰りツアーなど旅行専門業者などと提携し、朝倉市内だけでなく、朝倉市郡広域観光ツアーを企画・提供する。また、現地だけで使えるサービス券・振興券や原鶴温泉などの利用券を発行・配布し、観光客として誘致する。4、寄附者には都市圏の企業の経営者も非常に多いので、特典を送るとともに企業誘致の案内書や朝倉市をアピールする書類などを送付する。5、ふるさと納税を活用し、朝倉市民と一体となって新たな町おこしを推進する。6、ふるさと納税を通して朝倉市に関心を寄せてくださる全国の方々に、あらゆる方法を駆使して朝倉市をアピールし、移住定住を促進していく。このような6項目を30万円の寄附金のときに提言をいたしております。

時の市長は、あまりふるさと納税に積極的ではありませんでしたが、その後、農振課や観光課とともにいろいろな話をしながら職員の皆さん方が頑張ってくださいました。これも少しは参考になっていることと思います。

この人口問題に関する提言は農業問題や福祉・教育、その他に関するビジョンを提言しております。この9人の方々がそれぞれ専門的な知識を持っておられましたので、それを生かした形でこの中に入っております。市長、ぜひ読んでください。副市長もぜひ読んでください。教育長、教育委員会、お願いします。タブレットの問題も出てまいります。い

ろんな問題が出てきます。

私は、2つのことを今思います。こういう問題があるときに、行政を追求するだけではなくて、やっぱり議会側も行政とともに手を携えながら1つの朝倉市の夢を実現していく、そういったものを出していかなきゃならない。これは市を追及するものではありません。心から皆さん方が、9名の皆さん方の思いを出した。将来の朝倉市はこうあるべきだという提言書であります。もちろん、私たちはこういうものを作るプロではありませんから、至らないところもあるでしょうし、必ずしも完全とは言えませんが、僅か8か月の間に研究会を重ね、そして、提言書を作る時間を入れて8か月で提言を出しております。

議会の皆さん方も、先ほど私が述べましたように、今日の議会は行政委員会にも入りません。私は議会代表として社会福祉協議会に入り、充て職で副会長を2回行いました。そういった行政の委員に全部、今、議会は入っておりません。それから甘鉄もそうです。甘鉄も収支決算は議会に報告があっておりました。私たちは物申しておりましたけれども、独立しましたものですから、それもあります。健康福祉館もそうです。B&Gもそうです。ほかの指定管理に入ったものは全て、今、議会から意見を出すようなことはありません。私たちが、今、日常的にやっているこの10年間、私にとっては隔靴搔痒といいますか、歯がゆい思いでおりました。しかし、この歳にもなりまして、最後に少しでも朝倉市のために、かつてエネルギーを出してきた、これをやっていきたいと。一人になっても、一緒になってやっていこうという人がおったら、このようにこの前9名の方が参加していただきました。みんなで、私一人ではありません、みんなで、そしてこの中には行政も入ってきて、会員としてではなくて、一緒に研究会に参加してもらいました。そういった中で、今後は地域の住民のところに行って、地域の住民と議員との対話をやりたい。議会報告も大事なことです。しかし、私たちが出向いて、上秋月から三奈木から、蜷城から杷木まで、それぞれの住民の人たちと接する機会があって、そして、それをまとめて行政のほうに提言できたらいいなと。私もあと3年半、議員としての職責がありますので頑張っていきたいと思っております。

これを聞いて、市長はどのように思われますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） ふるさと納税、平成26年、まだ寄附額が36万円のときに（「32万円」と呼ぶ者あり）32万円ですか。今言われたようなことを具体的には6項目について、お話がありまして、これをずっと聞きまして、現在の我々が取り組んでいるふるさと納税に関する事務、あるいは掘り起こし、それから朝倉市のPR、そういったことについてもやっておりますので非常に共通点があるなということ、ぜひ参考に読ませていただきたいというふうに思ったのと、それと議員の長い活動の中で培って来られ、実績も出されておられますけれども、こういったことについて行政に対しても指摘ばかりじゃなくてというふうなお話がありました。

それを受けまして、我々も我々行政として、もうちょっとしっかり議会の皆さん方というろんな形で対話をするとか、そしてまた現場をもうちょっとしっかり見て、行政の原点とも言うべき市民の生活、経済の発展、そういったことをもうちょっとやっていく必要があるなどといったことを感じさせていただきました。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） まさに、私たちが提言したこの中身については、その当時7年、8年前ですから、ほとんど32万円なんてその当時からいくとゼロに近い状態です。それはこういうふうにしたらどうですかという提言の下に皆さんがやっていただいた。まさに議会と行政が一体化したと、私はそのように思っています。あの提言は、もう今全て実行されておりますし、プラスアルファもされております、職員の努力によって。それで29億2,800万円という、朝倉市にとっては最高額の金額が出た。これを言いたかったわけです。

だから、これから私たちは、今、ほとんど手のついていない、やらなきゃならんものを私たちは研究することによって、出向くことによって、提言することによって、5年先、10年先にふるさと納税のような形ができればなというのが私の願いのこの質問でございます。

そして、最後にこの項目としては、このふるさと納税が現在どのようになっているかといいますと、地域振興基金で40億円、公共施設で32億円、ふるさと基金で21億円、繰り上げをしますと約95億円が今後使える金であります。財調基金も43億円、減債基金も21億円という、今までにない今度の決算は本当に行政としてはくみしやすい、議会に——提言だと思えます。

それならば、そうした金を当面やらなきゃならない課題に対して、そしてまた、経常的に将来的なものとしてやれるのかと、それを打ち出していく。1年ぽっきりの単年度ではなくて、3年、5年、10年の中で計画を、これが私が今回出しておる財政の見通しです。これは私の分析する限り、財政課とも話し合う限りにおいては、可であるというふうに私は認識をいたしております。いかに運用するか、これが今後の朝倉市の課題であります。

今回のまた起こった九州豪雨も、幸いにして激甚災害の指定の見込みがあると。これは一律、そして特別交付金その他においても措置されてくるであります。これをもちまして財源はないということにはならないと、平成29年の結果、それを見て、私はそう判断しております。

私の一つの案としては、後からも出てきますけれども、こういうものに金を使えという話なんです、地域振興のために、今回3回目の提言です。地域環境整備事業は、手かせ足かせがついております。しかし、本当に18の地区で、私たちのところはこういう夢を描き、こういうことのまちづくりをやりたいというところが出てくるならば、そこに1億円でも、この金額からして来年も当初予算で20億円のふるさと納税の見込みを出しております。もっと増えるでしょう。先ほど言う経常的に財政の見通しは成り立つと、そういう考

えがあるならば、本当に地域浮揚を住民の手で、そして、そのお金は行政が保証する、こういう動きになれば、市がああせい、こうせい、こうします、こうしますという形ではなくて、住民本位の財源を基にした提案が、あるいは活動ができるのではないかというふうに提言してまいりました。市長いかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 議員は、今回の災害については財政にはそれほど影響がないのではないかという御意見を今言われましたが、平成29年災害は非常に大きかった、これはもうものすごい高率で改良復旧事業をすることができました。今回の災害につきましても、実は確かに補助率は災害復旧についてはかなり激甚災害のおかげをもって高率にはなっておりますけれども、平成29年の災害から今日までの朝倉市の災害に対する財政出動は相当なものがありまして、例えば、起債が非常に増えたということがありましたので、これをなくすためにふるさと納税を活用させていただいてきているという経過もございます。

まだ現時点でははっきりはしませんけれども、今回、今年の災害につきましても財政的な負担が生じるものであるというふうに我々は見ているところでございます。

そして、市民の皆さん方が待ち望んでいる事業等についても、今御意見をいただきましたので、しっかりと受け止めさせていただきたいと思えます。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 平成29年の災害以降の状況が、今回の令和4年の決算で出てまいりますので、それと同じような形になるとは言いませんが、それほどビクビクするようなことではない。決して放漫経営になれということではありません。しっかりと財政の見通しと書いております。私は、歴代財政課長と1年に数回、いろんな、堀内課長の時代からやってきております。多少なりとも財政に関しては、それなりに理解をしているつもりであります。

次の項目もありますので、このふるさと納税が今日このような状況になり、将来の展望につながっていく。このようなことを私は提言しております。

次に、秋月藩成立400年記念事業というのが、これはもう既にイベントとして9月今日まで3分の1程度はもう行われております。中学校も、あと甘木中学校を残すだけになっている。

この前、私が一般質問するということで、観光課長と文化・生涯学習課長と話をする中でいろいろなものをいただきました。それはもうイベントとしては立派なものです。しかし、本当に私たちの身近にこれが感じていますか。少なくとも、私も教育委員会主催のお茶の間講座でこの話を十数名の生徒さんたちに毎月1回、これを組み込んで今やっております。

私が、今回、一般質問やろうと思ったのは、8月にちょうど秋月博物館に家族で行きまして、そのときに来訪者は私たち家族だけでした。ちょうど乙藤職員を知っておりました

ので、説明してくれということでもったいない。それで周りを見ても秋月藩成立400年、「はあ」という人がほとんどじゃないですか。皆さん方は知識あると思いますけども、早々、このせっかくの400年の記念という、今後は500年です。450年もあったとしても、私たちの一人も生きていないんじゃないですか。それが継承されていくようなものがあるかということです。これを喚起しようと。教育委員会のほうも、今日ここでどういうことをやるか喋ってほしい、喋らせてほしいという願いがあるでしょう。とんでもない、なぜ8月までの間に全員協議会で、私たち全員に少なくともこういうふうに私に配付してくれた立派な企画書を提示せんのですか。そしたら、皆さん方からいろんな意見が出るはずで

す。私が、この前のときに課長の2人に言ったのは、この秋月400年の事業というものが一般市民には見えてこない。今回、ちょうど甘木町の老人会の会長の久保寺さんが発案されて、この60周年記念事業に隈部教育部長を講演者として呼んでおられます。非常にいいことです。これこそまさに、私が、それ以前に教育委員会と観光課に言ったことなんです。どうせならば、このイベントがたくさんやっても行政とそれに関する人たちだけのイベントしかない。じゃあ、皆さんお茶がありましたけども御存じですか。その一つのメインで広報紙にも出ました。ほとんどの人が関心がない。それはみんなに関心持ってくれって言うんじゃないで、いろんなこれだけのイベントをしていくんだったら、私は、各地区のコミュニティ協議会を通じたり、老人会を——将来的にはシルバークラブに変わるんですけども、こういう人たちを地区地区に呼んで、そういう説明、講演をしたらいかがですか。この企画書を、今度、議長にも言いたいと思いますけど、議長、ぜひこれは全協の中でやっぱりこういうイベントをするんだという教育委員会から、観光課でもいいですけども、皆さん持っていないでしょう、これ。そして、これが渡されました。これは私のところに来たときにこれがありましたので、私の生徒さんたちに渡しました。これは数日前のときにこれが棚に入っております。こんな状態でこれが全体的に盛り上がるのか。

先ほど言いましたように、この400年事業を——市内外と私は通告しておりますけども、市民の皆さん方が少なくともできる限り関心を持つ、それは秋月地区と蜷城とか端のほうとかいう差別的な言葉ではなくて、蜷城はもう加藤の流れでするので関心は非常にあると思うんですが、三奈木もそうです。それで杷木のほうも栗山利安以下、そういったところでもありますので、関心を持つ歴史的なものの素地はあるわけです。

ところが、今、市民で私の周りでこれ分かりますかと言ったら、「はあ」って人がほとんどじゃないでしょうか。

それで、今回これをやろうと思ったのも今でしょうということです。教育長、そう思いませんか。私は——市長も副市長も教育長も出て行ったらいいんです。お金をかけて講師を雇う必要はない。この前、乙藤職員が博物館で説明してくれました。佐々木館長もおります。隈部教育部長もおります。お呼びがかかれば私も一応講演できますから、みんなで



ボランティアで——皆さんは職責上——そういう形でやれば、地域に根差して中学生とかだけじゃなくて、その地域地域のコミュニティの老人会だとか女性の会だとか、いろんな方がおられるわけですから、一緒に来てください。

そして、もう一つ時間があまりありませんが、先ほどのに力が入りましたけども、この兜です。これを見せられたときに、これは売りです。これを持って来てください、手段方法はどうかということは別として、今度、ツタンカーメンのときもそうです。パンダのときもそうです。やっぱりそれに引かれて行く。そうするとツタンカーメンを見れば、エジプト史を少しは勉強しようかと、すごいなど。秋月史を、これを見たいということ、私も見たいです、これは。これを展示しているから見に来てくださいというだけじゃなくて、これレプリカですから、今度の朝倉市が作っているのは、もちろんのこと。これを持ち出し可能ですから、警備をしっかりすればいいわけですから。これ、プラスアルファ、私、母里太兵衛の日本号も見ました。博物館に飾られている模造品を見ました。それでいいんです、みんな。その中で、ああ、そげなつがあるとなど、講演もあるげなど、ちょっと聞いてみようと、会長さんがえらい熱心やけ、よかったばい、初めてあげなやつば見たと、こういうのを見たことのない朝倉市民もたくさんいると思います。そういう場所を積極的にやったらどうですか。教育長、どうですか。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、議員が申されました秋月藩成立400周年の行事です。この件につきましては、まずは学校教育からやろうということで、今年8月から御存じのとおり市内6中学校で秋月博物館の館長を中心に、もう既に各中学校を回って講演をしております。秋月藩の歴史、そして、できたらその中学校校区の歴史も交えて講習会をしております。

次、考えております、すみません、幾つか御紹介させていただきますけども、小学生向けに動画を作成しまして、それをまた発信しようというふうに計画をしているところでございます。

今、議員が申されました各地域、コミュニティに行っ出て出向いて、実際足を運んで、その地域、例えば地域の歴史について講演とか勉強会とかできないかという御提案、大変ありがたい御提案でございます。ぜひ、これは教育委員会としましても今考えておりますので、これは実現していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

また、レプリカにつきましても、可能ならばこれも一緒に、まだ許可を得ていませんけども、こういったものも一緒に持って行けたらばいきたいなというところを考えて、今非常に積極的な御意見をいただきましたので参考にさせていただきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 教育委員会は学校だけじゃありませんから、文化・生涯学習、そっちの関係で教育長に答弁をいただきました。最後のほうに積極的にやりたいということ

です。

市長、やっぱりその考え方が、せつかくの400年です。ただ単に秋月藩がどうだこうだというのはあんまりそこまで盛り上がりはないと思うんだけど、400年という貴重な、秋月という先ほどからの原鶴という財産です。後で述べるこの丸山公園も、県下で有名な桜の名所。こういうものを生かしていくということを考えていかないと、魅力ある朝倉市にはならない。

先ほどからの災害は、本当に不幸で何とかしなきゃならん。しかし、もう一方、明日の未来をつくるためにこの400年祭の事業というのはチャンスだと、しかも、これは市長なんですけども、市外の関係でも積極的なアピールをする機会を副市長以下、観光課も含めてこう考えたらどうですか。もう400年は1年です、400年祭は。だから、来年は長興公が入城してきた1624年ですから、あと1年ありますけど、一応盛り上がりとしては、10月にシンポジウムがあるということですから、一気に。今9月、次、この10月に向けての体制を取りながら、やっぱり来年に向けて、この兜も来年しかできてこないそうなので非常に残念なんですけど。この取組も遅いと思うけども、そういう形で、市長、全面に立って、この前一番最初のときから400年事業というのをやりますということであげようから、ぜひ職員と一体となってやってください。地域にやるということが前提、そして、市外にも朝倉市はこういうところですよという、全くこれアピールする材料です。だから、ちょうど甘木町の老人会が9月18日に、また言いますけど隈部部長を呼んで皮切りをやりますから、それを朝倉市全体に広げていってもらいたい。これ老人会だけじゃなくて、地区の皆さんが来られるような形を取っていただきたいと思います。

時間がありませんので、次に行きます。

これ、今回3番目に朝倉市の課題への取組、時間的に現庁舎移転後の活用しかできないと思うんですが、これが現状として、私ももう3回、一般質問をなしました。今日は欠席ですけど熊本議員、それから柴山議員、それぞれ何回も丸山公園の整備等についての一般質問をなされてきました。

私もこの現庁舎を活用し、そして丸山公園と一体化して、ただ単なる整備だけでなく再開発をしてはどうか。この現庁舎と一体化させた丸山公園という、皆さんもあちこちの記念のところに観光のところに行かれたと思いますが、いろんな施設があって、庭があって、そして建物があるんです。記念館があつたりします。皆さんは上杉鷹山のところに行かれたと思いますが、米沢。立派なものがあるじゃないですか。ここはもうこの地域のロケーションというのは、本当にあちこちないです、これは。だから、これを生かす。そして、これは整備だけじゃなくて、この質問に移りますが、この現庁舎が新庁舎に移転した後のどうなるかということで、検討委員会が副市長を議長として教育長も入り、部長以下、検討されている。まだ数回という話を聞きましたけど、ちょっと現状についてお話しください。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 出番をつくっていただきまして、ありがとうございます。

私のほうで、今、庁舎整備検討委員会というのを開いております、私のほうが座長で進めさせていただいております。5月、6月で、今回8月、災害がありましたので、8月に3回、今開催しております、名前のとおり新庁舎の関係とこの現庁舎、跡地の活用になります、そういった分の検討をさせていただいております。

その中では情報共有とかアイデア出しなど、そういったのを進めておるところでございます、現在、情報共有の場ではありましたので、少し情報を流させていただきたいと思っております。

まず現庁舎、この庁舎につきましては50年を経過しておるという状況。それと、これはもう議員何人が御存じかと思いますが、平成27年当時、この建て替えの根拠になりました耐震補強工事、当時これが23億円だったということでございます。これは耐震基準の変化によりまして、現在もっと高くなっている可能性はございます。それと、平成28年当時でございますけども、これを解体するに当たっては約2億6,000万円程度かかるといったような試算の中で今考えております。これにつきましても工事費が上がっており、また、アスベスト除去に非常に今費用がかかるようになっておりますので、この費用についてはもっと高額になるものだというふうな状況の中で今いろいろ検討を行っている状況でございます。

以上です。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） これをどうするかというのは一つの課題でしょう。大きく分けて、まずもって検討委員会が、そんなにスムーズに、過去の例を取ると、行くとは考えていません。というのは、朝農跡地のときに実は県のほうに出すときに、平成21年に最初出しました。その後2回目を平成23年に出すというときに、これは塚本勝人市長から森田市長に代わったんですが、どういうものを出すかちゅうて1年間、部長を集めて副市長と同時にほとんど変わらない、内容を聞くとほとんど発言もなかった、集約は前あったものをそのまま県のほうに出して、そのいろいろありましたから払下げを受けたという経過がありました。現実的に来年2人の部長が、局長もそうですが、退職されます、一応。新しく入っていきます。教育長も入っておられると思いますが、積極的に発言できますか。責任を持って、この現庁舎をどうするかということ。それは教育長は、ここの甘木中学校がありますので、この防犯問題に甘中のPTA、それから地元、いろんな人たちからここに要望書が出ております。それに対して明確な回答は一つもない。もう地域の人たちはもう憤懣やるかたないちゅう状況です。

そこで、私は、副市長が座長であるならば提言します。3つのこの方法があると思います。

1 番目は、解体してそのまま更地にすることです。これは、市長、副市長、教育長でなくても、私にもできます。お金さえあれば——できるわけです。

2 番目、それではいかん、これを壊すのは仕方がないというふうに結論づけるならば、ここにこの市庁舎があることによって恩恵を被り、あるいは一体化して生活をしている人たちもいるわけです。じゃあ、この解体した後、これをどうするかという具体案を本来ならば移転する前に提起してほしい。山田高校が、ちょうど私も田川のほうに行って行きますけども、解体されました。あとどうするか分かっていません。あそこは道路があって、ほとんど民家のないところで、そこに何かを建ててどうするとか何するとかいう状況ではありません。もう御存じだと思います。市長も知っておられると、教育長も知っておられると思うけど、あそこは更地です、ずっともう2年間ぐらい。後の見通しも経たない、恐らく次々に移っていくわけです。市長も何年、これから先されるか分かりませんし、私たちもいつまで議員をやれるか分かりません。そのときにできなかつたら、次でしょう。できなかつたら次です。しかし、私たちは今日生きてるんです。明日生きるんです。そして、その後に子供たち、孫たちが継承していくんです。当時は「今でしょ」という言葉がはやりましたけれども、本当に今、ここが移転するときには最低限でも一つの考え方が出ていないと、これはうやむやになってしまいます。市長がこうしたいと思っても、今後移転してから考えると、結論を出しますとかいう話ではない。

3 番目は、これを解体しないで補修をすることが可能なのか。これは私事ながら私も3階建てのビルを解体して何とかしようと思ってましたけど、諸般の事情でできませんでした。やむを得ず、今改装しておりますけど、私の思ったより以上に、私としては個人的なことですけども、いいものが出来上がっているような気がいたしております。もちろん小さな私のような家の問題と、この朝倉市の市庁舎との問題を比較するわけではありませんが、コンセプト、考え方は一緒です。だから、有効活用ができないかというものも、この2番と3番を検討委員会ではやるべきです。解体ありきではありません。更地ありきではありません。これをいかに生かすかという2つの2番と3番がなければ、地域住民は私も含めてこの周辺、菩提寺と堤だけの問題じゃないんです。甘木中学校に通っている子供たちの問題でもあるし、その周辺を取り巻く、そして丸山公園が、これがされたら、ここを例えば、時間があんまりないんですけども、この本会議場が残されるならば、私ならばこれはシアターを造るというふうに提言します。できるかどうかは別です。何か言ったら、それじゃ駄目じゃん、それはいいですねと、それなら代案を出しなさいと、否定するんだったら。例えば、ここだけでも立派なもんです、この階段をぐっと上がって。私のところには従来から太鼓とかドラムとかコンサートみたいなものの練習がしたい、練習をする場所がない、音がうるさくて。ちゃんとあると言っても金が高い。日常的に練習して迷惑をかけないでやれるような場所はないですか。ここを改造して、そして映画も200円ぐらいでやってるところもあるんです、有料で。そして、ここも1時間200円ぐらいでから

自由にさせて、そして——いや、これは一案です、そして、ここに劇団とかいろんな人が来たときにそこでステージじゃなくて、いろんな服を替えたり練習したりするところもありますから。

1階から2階、3階、私は朝倉市の英会話、英語スピーチコンテストもやって何回も私は行きましたけども、朝倉市と言ったら英語の町だと。ここに行ったらプロナンシエーション、発音というんですけども、それが自由に聞ける。お金は100円とか最低限取っていいんですけど、そういった全国的に売り出せるようなものができないものかとか。それから老人会も、それから女性の会やら、それら各種団体がこのフロア2階とか3階を一角を自分たちの拠点にして集まることができないものか。そうすると1階は食生活のできるような、多少の今地下に食堂があるようなもの、あるいはスーパーみたいなものができないのか。それは私の一つの考え方で、こんなものは一笑に付されるかもしれませんが、具体的な案があるならば、そういうものを検討していくことがあと一年で、令和6年の12月になるんです。そして1年後に移転、あつという間に来ます、これは。そして部長はどんどん代わっていきます。その提言ができる自信があるのかどうか。

そして、最終的には何回も、私、今度で4回目なんですけども、この丸山公園とあと2番、3番に残して、今日はできませんけども、これも今までやってきましたから。2番、3番との一体的な、ここはここの特徴、朝農跡地は朝農跡地の特徴、三奈木の公園はあの特徴、しかし、一体化することによってA、B、Cをつなぐ一つのルートの観光ルートになすことはできないものか。こういった発想を、私もこれからこういう先ほど提言したような形で同僚議員と一緒にやっていただける人が一人でもおれば知恵を出しながら、そして行政と、この話は行政追及ではありません。いいものをつくりましょう、みんなが喜ぶようなもの、誰もがちゅうものはできませんけども、最小限度みんながここで納得するようなものをこの現庁舎が移転することによって、よかったと、逆に。そこまでぐらいになると最高なんですけど、今、丸山公園も私も都市計画と話し合いながら、遊戯場とかいろいろ整備に関わっております。あのブランコも私も提言して、都市計画の方と話して、一緒にです。だから、それは部分的なもんです。そうじゃなくて全体的な総合的な丸山公園改革と十文字公園でアスリートのいろいろなものをつくっていくならつくっていく、美奈宜の杜をどうするか。

今日は最後のほうの2番、3番まで行くことはできませんけども、そういった最終的に丸山公園とこの現庁舎を含めた一体的な朝倉市のビジョン、一番最初に言った朝倉市の未来の一端をこの場所によって担うことができないか。

市長、1分47秒ありますので市長の見解を聞きたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 議員から非常にある意味夢のあると思われる御提言をいただきました。

先ほど申し上げましたように、どうしても副市長も言いましたように、建物の問題、いや、これどうしてもやっぱり避けて通れませんので、今議員が言われました一つの案ということでもありますけれども、いずれにいたしましても現市庁舎は市民の人からも認めていただけるような、そしてやっぱり有効な活用ができるというようなことを目指してしっかり検討していくということでさせていただきます。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 最後に市長の強い気持ちを答弁していただきましたので、私の今回の一般質問が十分ではなかったと思いますけれども、少しでも朝倉市のための一端を担うような努力をしてみたい。特に、行政の皆さんと、そして議会の同僚議員の皆さんと共に手を携えて、私もこの歳になりましたので最後まで朝倉市のために尽くしてみたいと思います。

これをもちまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後3時20分に再開いたします。

午後3時10分休憩